

DUP-1/1B

ヤマハ電子アップライトピアノ

取扱説明書



YAMAHA

安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

⚠ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、⚠ は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠ は注意が必要なことを示しています。

🚫 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を**強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の恐れがあります。



電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。

感電やショート of の恐れがあります。



本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

⚠️ 注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- ⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⊘ 本機を壁につけて設置するときは、本機背面の電源プラグ部に無理な力がかからないように、壁との間に少しすき間をあけてください。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⚠️ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。
- ⊘ タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。
- ⊘ 電源コードやプラグが痛んだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。
- ⚠️ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(O)にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
- ⚠️ 本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ⚠️ 本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。
- ⚠️ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。
- ⚠️ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ⚠️ 地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ 外装をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本機の上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
外装や鍵盤が変色・変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハ電子アップライトピアノをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本機を正しくお使いいただくため、お使いの前に本書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

本機の特長

◆アップライトピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションが働きハンマーが動くアコースティックピアノと同様の機構により、アップライトピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。

◆キーセンサーが鍵盤の微妙な動きを検出

鍵盤の微妙な動きを、光ファイバー方式のキーセンサーが忠実に検出します。タッチの微妙なニュアンスを、きめ細かくキャッチします。

◆リアルなピアノ音色

AWM音源による緻密なピアノ音色に、デジタルフィルター処理を施すことにより、リアルなピアノ音を表現できるようになりました。ピアノ独特の鋭い立ち上がりと美しい余韻、打鍵の強弱による音色の変化など、リアルなピアノ音色をお楽しみください。

◆音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音量を自由に調節できます。^{*1}

また、ヘッドフォンを使用すれば、周囲のかたに気がねなく演奏できます。ヘッドフォンは2本まで接続でき、ヘッドフォン使用時にもレッスンや連弾ができます。

◆軽量・コンパクト設計

重量96kg、高さ98cmの軽量・コンパクト設計です。

^{*1} 音量ツマミを最小にしても、鍵盤をたたく音は消せません。

目次

安全上のご注意	2
本機の特長	4
付属品	5
各部の名前	6
ペダルのはたらき	7

基本編

ご使用前の準備	
鍵盤蓋について	8
譜面板について	8
演奏する	9
ヘッドフォンを使う場合	9

応用編

リバーブをかける	10
ピッチを合わせる	11
同時発音数を切り替える	13
他の機器と接続する	14
他のMIDI機器と接続する	15

資料編

お手入れ	16
音のエチケット	16
お引越しのときには	17
おもな仕様	17
おかしいなと思ったら	18
MIDIインプリメンテーションチャート	19
保証とアフターサービス	裏表紙

付属品 (お確かめください)

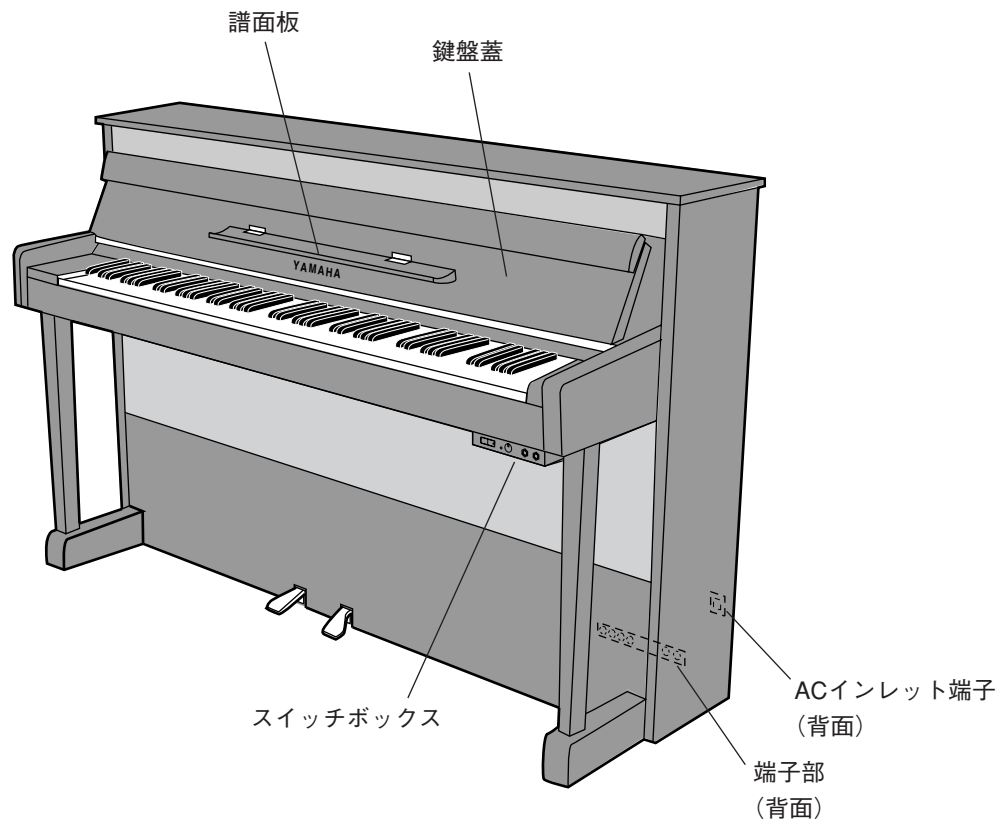
納入時の付属品は次のとおりです。ご使用になる前にお確かめください。

- ◆取扱説明書 ◆保証書 ◆ご愛用者カード ◆AC電源コード

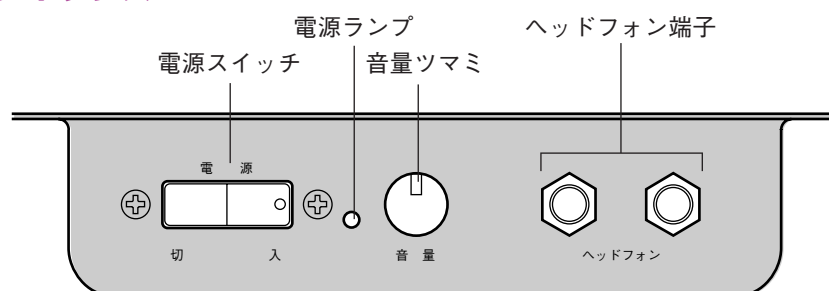
補足

- ・ 納入の際には、必ず保証書の「販売店名、お買い上げ日(納入日)」などの記入を確かめて、販売店よりお受け取りください。
- ・ AC電源コードは、納入時に接続させていただいております。

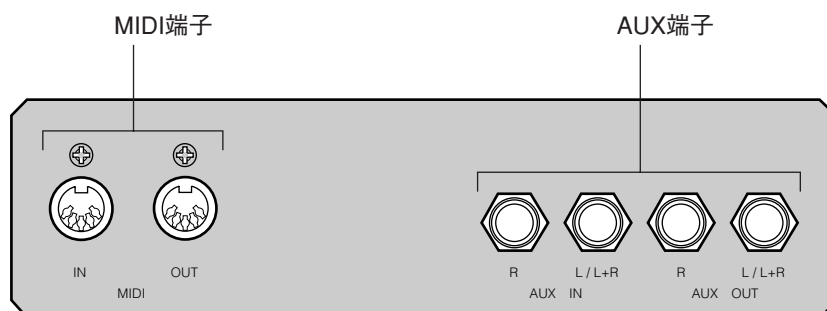
各部の名前



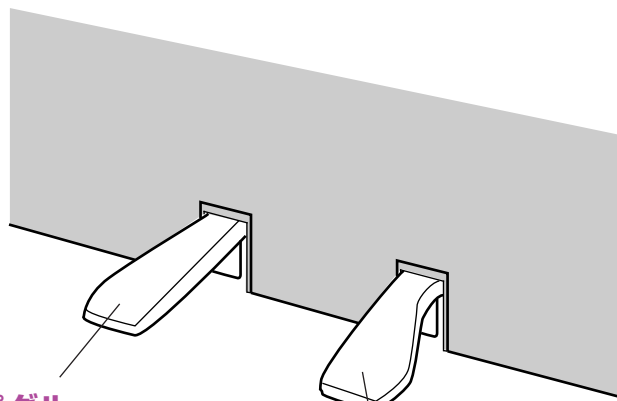
スイッチボックス



端子部



ペダルのはたらき



ソフトペダル

このペダルを踏むと、音の響きが柔らかくなります。

ダンパーペダル

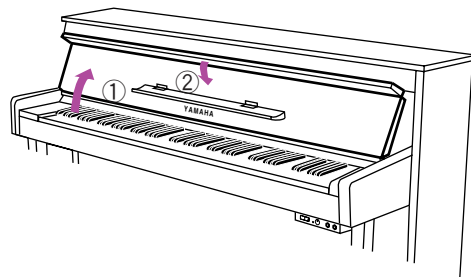
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても、音を長く響かせることができます。

ご使用前の準備

鍵盤蓋について

開けるとき

- ①両手を添えて、ゆっくりと起こします。
- ②鍵盤蓋の前面板を、下向きに倒します。



閉めるとき

- ①倒しておいた鍵盤蓋の前面板を、止まるまで上向きに戻します。
- ②両手を添えて、ゆっくりと閉めます。

補足

- ・ 鍵盤蓋を開いたら、前面板は下向きに倒してご使用ください。上向きのまま使用すると、音がこもることがあります。

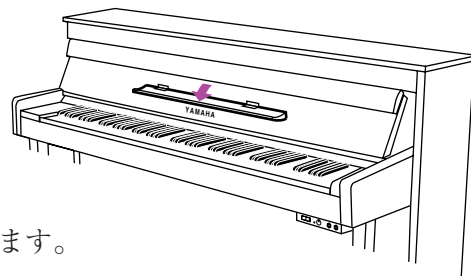
⚠ 注意

- ・ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉めてください。鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行い、また自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにしてください。鍵盤蓋と口棒の間に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

譜面板について

立てるとき

譜面板を、止まるまで下向きに開きます。



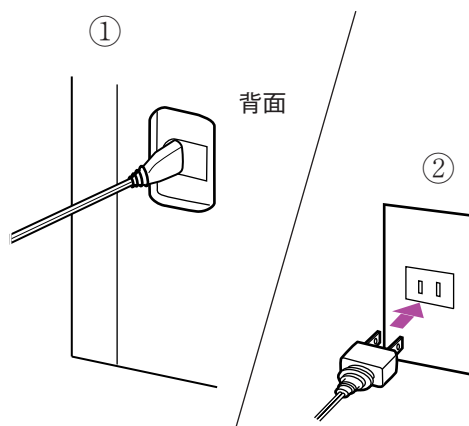
倒すとき

開いておいた譜面板を、止まるまで上向きに戻します。

演奏する

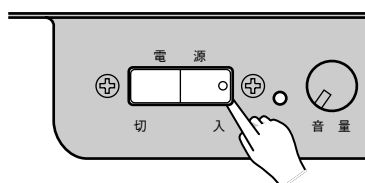
1 電源コードを接続する

- ①本機背面にあるACインレット端子に、電源プラグが接続されていることを確認します。
- ②家庭用(AC100V)コンセントに、電源プラグを差し込みます。



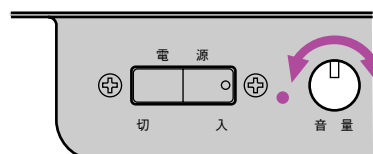
2 電源を入れる

- 電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れます。
- ☞ 電源ランプが点灯します。



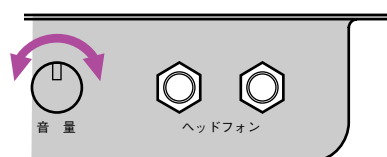
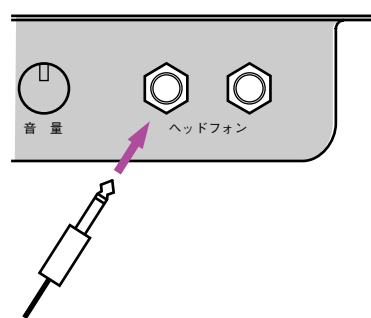
3 音量を調節する

- 音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に演奏して音量を決めます。



ヘッドフォンを使う場合

- ①ヘッドフォン(別売)を、ヘッドフォン端子に接続します。
- ②音量ツマミを中央付近まで回した後、実際に演奏して音量を決めます。



補足

- ・ヘッドフォンを接続すると、本機のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。ただし、鍵盤をたたく音は消せません。
- ・ヘッドフォンは2つまで接続できますので、演奏をもう一人のかたが確認したり、連弾することも可能です。2つ接続する場合は、同じ仕様のものをご用意ください。(推奨品：HPE-170)

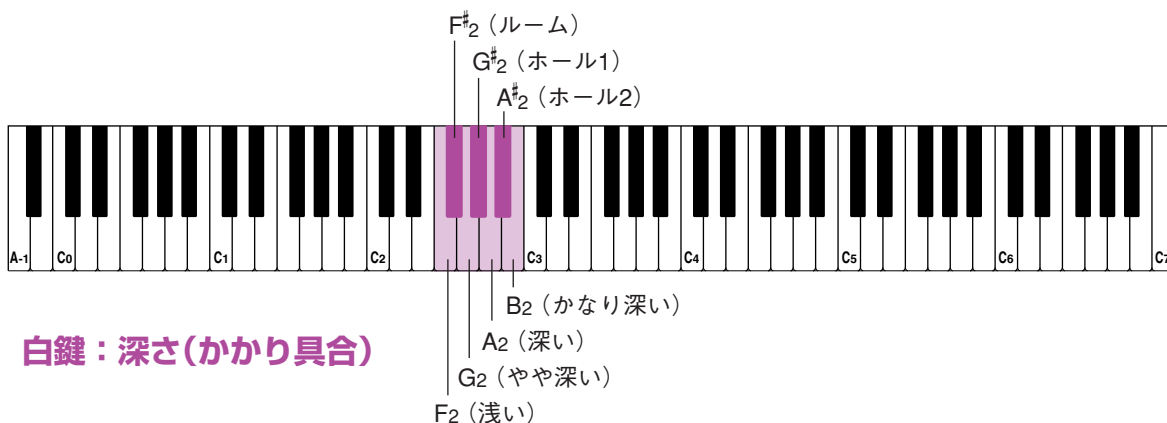
リバーブをかける

リバーブとは、音に残響を付け加えて音の響きを豊かにする効果です。

通常の方法で電源を入れるとリバーブはかかりませんが、下記のように白鍵および黒鍵を同時に押しながら電源を入れることにより、お好みの種類および深さ(かかり具合)でリバーブをかけることができます。

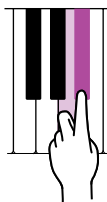
黒鍵：タイプ

- ルーム：響きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。
- ホール1：小さなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。
- ホール2：大きなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。



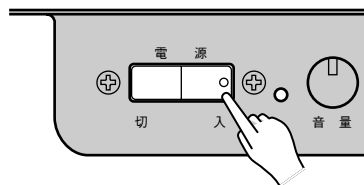
例：ホール2のリバーブを、深くかけたい場合

A₂とA₂[#]を同時に押しながら



+

電源を入れる



補足

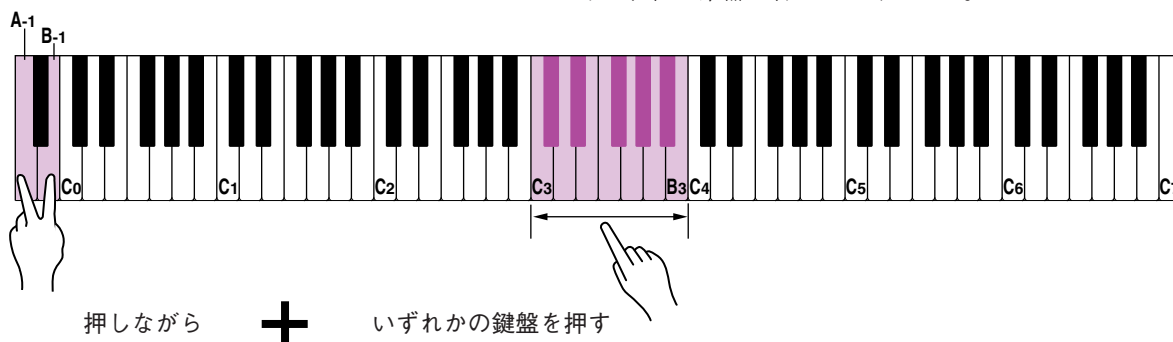
- リバーブの設定は電源を切ると解除され、次回通常の方法で電源を入れるとリバーブはかかりません。

ピッチを合わせる

他の楽器とピッチ(音程)を正確に合わせることができます。合奏のときなどに楽器間でピッチがずれていると、両者の間で音にうなりが生じます。本機と他の楽器の両方を鳴らしながら、うなりがなくなる高さに調整してください。

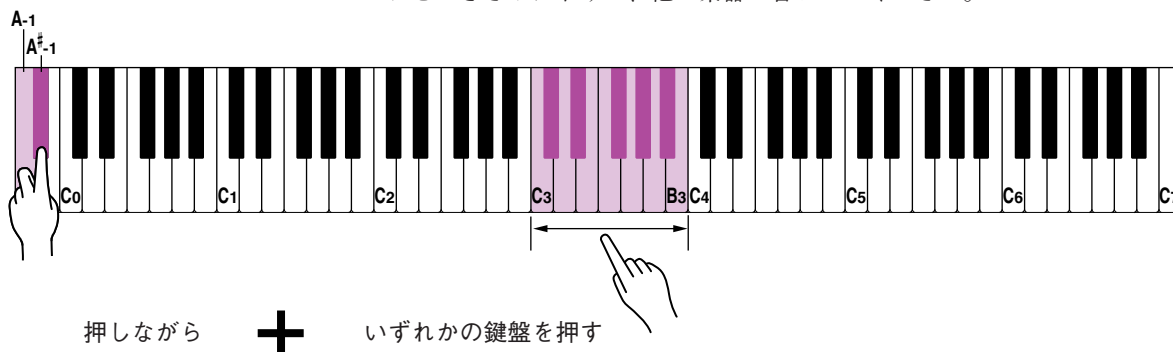
ピッチを上げるとき

- ①A₋₁とB₋₁の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが上がります。音を聴きながらピッチをこきざみに上げて、他の楽器と合わせてください。



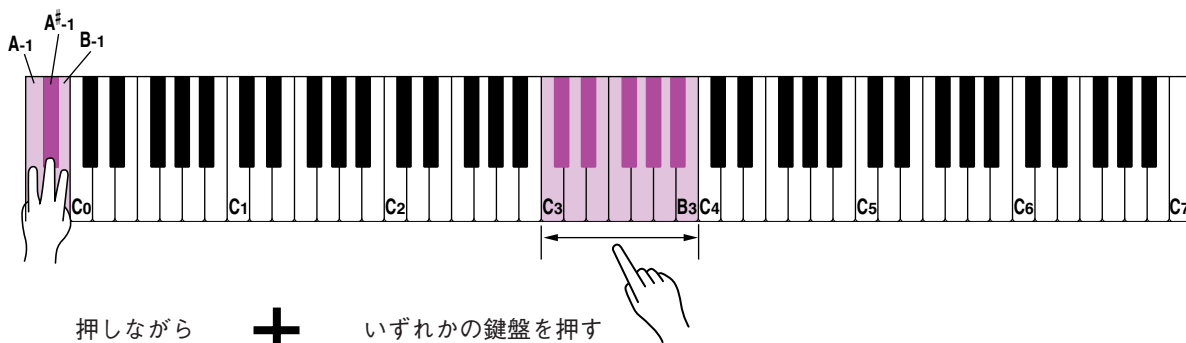
ピッチを下げるとき

- ①A₋₁とA[#]₋₁の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃いずれかの鍵盤を押します。
1回押すごとに少しずつピッチが下がります。音を聴きながらピッチをこきざみに下げて、他の楽器と合わせてください。



標準のピッチに戻すとき

- ① A₋₁とA[#]₋₁とB₋₁の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、
- ② C₃～B₃いずれかの鍵盤を1回押します。



補足

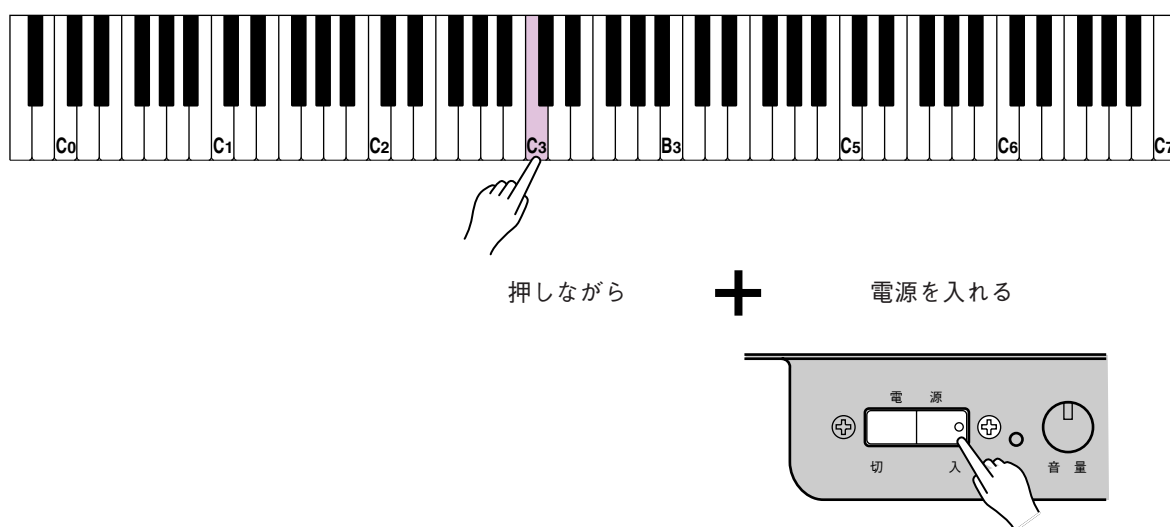
- ・ ピッチは±約50セントの範囲内で、約1.2セントきざみの設定ができます。(100セント=半音)
- ・ 鍵盤で設定したピッチは電源を切ると解除されます。次回電源を入れると、標準ピッチ(A₃=440Hz)に戻ります。

同時発音数を切り替える

本機の最大同時発音数は、通常ステレオ16音です。連弾やペダリングを多用する曲を演奏するなど、同時に17音以上を必要とする場合は、最大同時発音数を32音(モノラル)に切り替えることができます。

32音に切り替えるとき ①C₃の鍵盤を押しながら、

②電源を入れます。



補足

- 同時発音数の設定は電源を切ると解除され、次回通常の方法で電源を入れると、最大同時発音数はステレオ16音に戻ります。
- 同時発音数を32音に切り替えるとともにリバーブをかける場合は、C₃の鍵盤とリバーブ設定用の鍵盤(10ページ参照)を同時に押しながら、電源を入れます。

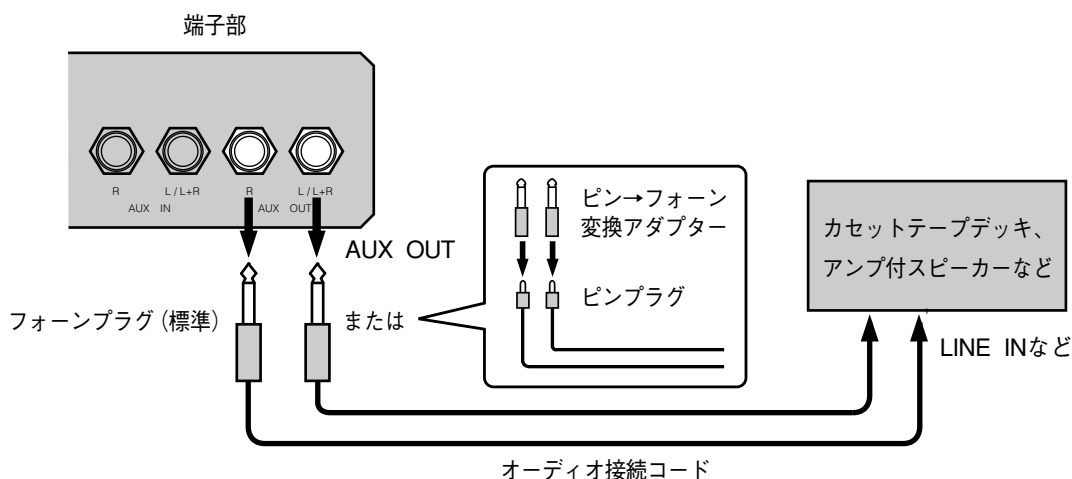
他の機器と接続する

本機背面にあるAUX端子を使って、他の機器と接続できます。ここでは、AUX端子の使用例をご紹介します。

AUX出力(AUX OUT)端子の使用例

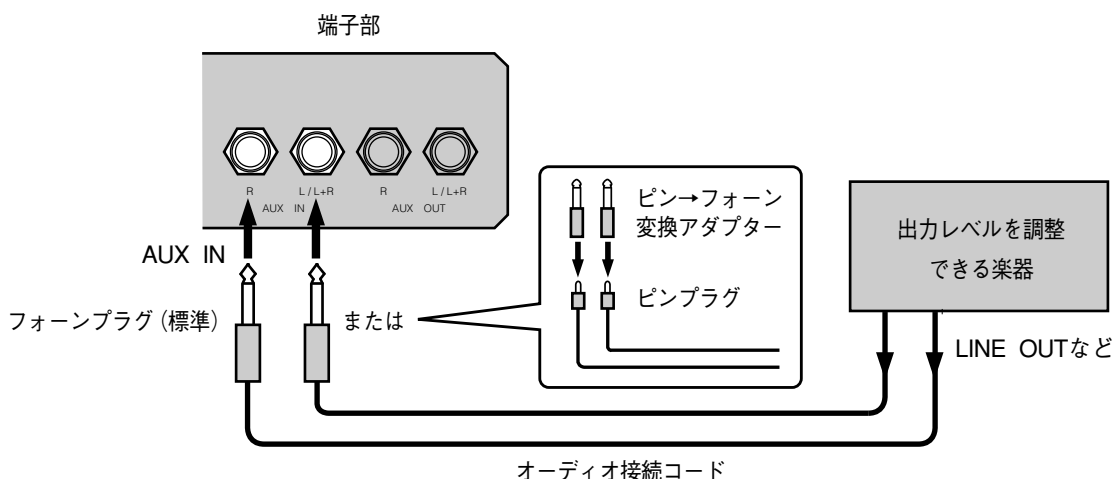
カセットテープデッキに接続すると：本機での演奏を録音できます。

アンプ付スピーカーに接続すると：アンプ付スピーカーからも音を出せます。



AUX入力(AUX IN)端子の使用例

他の楽器を接続すると：他の楽器の演奏音を、本機のスピーカーで鳴らすことができます。



⚠️ 注意

- ・接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。

補足

- ・オーディオ接続コードおよび変換アダプターは、抵抗のないものをお使いください。
- ・AUX入力端子より入力された音は、本機では音量調節できません。相手側のボリュームで音量調節してください。

他のMIDI機器と接続する

本機背面にあるMIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。ここでは、MIDI端子の使用例をご紹介します。

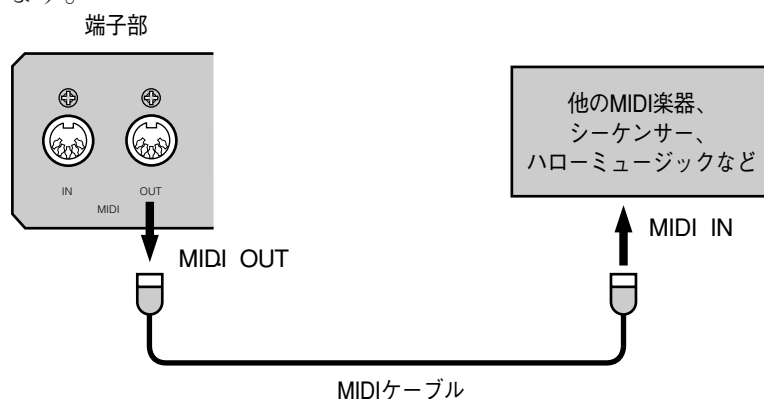
MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例

他のMIDI楽器に接続すると：

本機での演奏を、他のMIDI楽器の音色で鳴らすことができます。

シーケンサーに接続すると：

本機での演奏情報を、シーケンサーやヤマハ・ハローミュージックに記録できます。



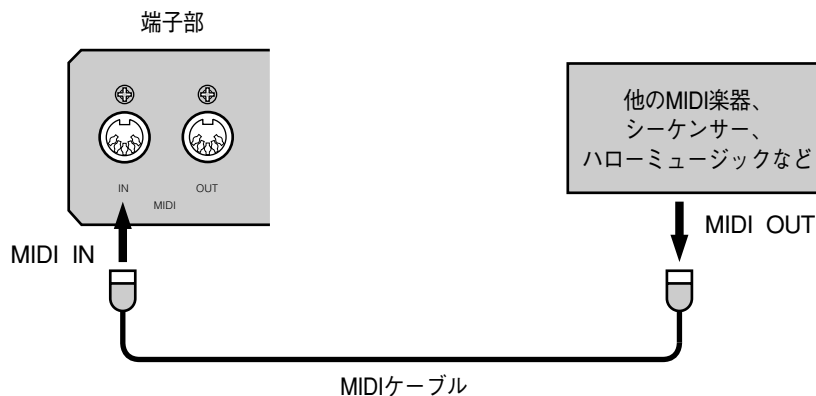
MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例

他のMIDI楽器を接続すると：

他のMIDI楽器の演奏を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。

シーケンサーやヤマハ・ハローミュージックを接続して、それらを再生すると：

シーケンサーやハローミュージックに記録されている演奏情報を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。



補足

- ・ 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。
- ・ MIDI端子を装備した機器に限り、接続が可能です。MIDIは、MIDI機器同士の連携プレイを可能にするメーカーを超えた世界共通の規格です。

お手入れ

- ◆表面に付いたホコリはピアノ用の羽毛で払うか、または柔らかい布で軽く拭き取ります。汚れは、柔らかい布に水をしみ込ませ固くしぼって拭き取った後、乾いた布で乾拭きします。
- ◆汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。
- ◆鍵盤の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー(別売)のご使用をお勧めします。

DUP-1をご購入のお客様 (黒艶消し塗装)	DUP-1Bをご購入のお客様 (黒鏡面艶出し塗装)
<ul style="list-style-type: none">・強く拭いたり拭きすぎると、塗装に悪い影響を与えることがありますのでご注意ください。・艶消し塗装のため、ピアノユニコンは使用しないでください。	<ul style="list-style-type: none">・艶出しをするときは、ピアノユニコン(別売)のご使用をお勧めします。

音のエチケット

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

お引っ越しのときには

必ず専門業者または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

おもな仕様

- ◆ 鍵盤 …………… 88鍵(A₁~C₇・7オクターブ1/4)
- ◆ アクション …………… アップライトピアノアクション方式
- ◆ 音源 …………… AWM音源
- ◆ 音色 …………… ピアノ
- ◆ センサーユニット …………… キーセンサー、ペダルセンサー
- ◆ 最大同時発音数 …………… ステレオ16音(モノラル32音切り替え式)
- ◆ コントロール・機能 …………… 電源スイッチ(ランプ付)、音量ツマミ
リバーブタイプ切り替え(ルーム、ホール1、ホール2)
リバーブ深さ切り替え
ピッチコントロール
最大同時発音数切り替え
- ◆ ペダル …………… ソフトペダル、ダンパーペダル
- ◆ 付属端子 …………… ヘッドフォン端子×2、AUX端子(IN、OUT)
MIDI端子(IN、OUT)、ACインレット端子
- ◆ アンプ …………… 30W×2
- ◆ スピーカー …………… 16cmウーハー×2、5cmツイーター×2
- ◆ 定格電源 …………… AC100V、50/60Hz
- ◆ 消費電力 …………… 45W
- ◆ 外装仕上げ …………… DUP-1：黒艶消し塗装、DUP-1B：黒鏡面艶出し塗装
- ◆ 寸法 …………… 間口：150cm、奥行50cm、高さ98cm
- ◆ 重量 …………… 96kg
- ◆ 付属品 …………… 取扱説明書、保証書、ご愛用者カード、AC電源コード

※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

おかしいなと思ったら

おかしいなと思ったときは、まずこの表に沿って調べてください。

現象	原因	解決法
本機の電源が入らない。	電源プラグが、コンセントに差し込まれていない。	家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。 →9ページ
	電源プラグが、本機側に差し込まれていない。	本機背面のACインレット端子に、確実に差し込んでください。 →9ページ
	電源スイッチが切れている。	電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れてください。 →9ページ
電源スイッチを入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がる。	—	電気が流れたためです。ご心配いりません。
まったく音が出ない。	音量つまみが最小になっている。	音量つまみを右に回して、音量を上げてください。 →9ページ
	ヘッドフォンを接続している。	ヘッドフォンのプラグを抜くか、またはヘッドフォンで聴いてください。 →9ページ
演奏時に「カタカタ」と音がする。	鍵盤をたたく音です。	故障ではありません。
リバーブがかからない。	リバーブの設定をしていない。	リバーブの設定をしてください。 →10ページ
音が残りがすぎる。(残響がかかりすぎる。)	リバーブの深さ設定が深すぎる。	適度な深さに設定してください。 →10ページ
他の楽器とピッチが合わない。	本機で可変できるピッチの範囲を越えている。	他の楽器側でピッチを変えてください。
連弾やペダリングのときに、前の音が急に消える。	通常の最大同時発音数(16音)を越えている。	同時発音数を32音(モノラル)に切り替えてください。 →13ページ
AUX端子を使って接続したが、両機器間の音量のバランスがとれない。	片方の機器のボリューム(音量つまみ等)だけで、音量を調整しようとしている。	両機器のボリューム(音量つまみ等)を操作して、音量バランスをとってください。
他のMIDI機器と、情報をやりとりできない。	MIDIケーブルの接続が不完全。	両機器のMIDI OUTとMIDI IN端子間を、MIDIケーブルで確実に接続してください。 →15ページ
	本機のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルと合っていない。	他の機器のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルを、チャンネル1にしてください。 →19ページ

DUP-1/1B MIDIインプリメンテーションチャート

Date : 1997. 5. 9
Version : 1.0

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源オン時 設定可能	1チャンネル ×	1チャンネル ×	
モード 電源オン時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノート ナンバー 音域	21-108 *****	21~108 21~108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ × 90H, v=0	○ ○	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ 64 67 91	○ ○ ○	○ ○ ×	ダンパーペダル ソフトペダル (シフトペダル) リバーブ・デプス
プログラム チェンジ 設定可能範囲	× *****	× ×	
エクスクルーシブ	×	×	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× × ○ ×	
備考			

モード1：オムニ・オン、ポリ モード2：オムニ・オン、モノ ○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ モード4：オムニ・オフ、モノ ×：なし

保証とアフターサービス

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1年です(現金、ローン、月賦などによる区別はございません)。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

◆ 保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

◆ 保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定にのっとりご購入の日から向こう1年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

◆ 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいは弊社にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを、責任をもって行うよう手続きいたします。

◆ 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハサービス網までお問い合わせください。なお、補修用性能部品の保有期間は、最低8年となっています。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ
リレー類、接続端子、鍵盤機構部品など

ヤマハサービス網

本機の保守点検等のサービスに関するお問い合わせは、お買い上げいただきましたヤマハ楽器特約店の他、下記ヤマハサービス網にてお受けいたしております。

ヤマハ支店

北海道支店	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター内) 011(512)6114
仙台支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル 022(222)6144
東京支店	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 03(5488)5442
関東支店	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 03(5488)1680
名古屋支店	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 052(201)5145
大阪支店	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザ東館 06(252)7541
広島支店	〒730-8628 広島市中区紙屋町1-1-18 082(244)3748
九州支店	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 092(472)2152

ピアノ・インフォメーションセンター

〒430-8650 浜松市中沢町10-1
(営業時間 月～金 10:00～12:00 / 13:00～17:00)
フリーダイヤル ☎ 0120-084808

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受け付けおよび修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-0810 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 011(512)6108
仙台サービスセンター	〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F 022(236)0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025 川崎市中原区木月1184 044(434)3100
東京サービスステーション	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 03(5488)6625
浜松サービスステーション	〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565-0803 吹田市新芦屋下1-1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 06(877)5262
四国サービスステーション	〒760-0029 高松市丸亀町8-7 087(822)3045
広島サービスセンター	〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 092(472)2134
本社/カスタマーサービス部	〒435-0048 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 053(465)1158

ヤマハ株式会社

本社 / ピアノ営業部

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 053(460)2181(代)